

お茶の時間



やったあ〜！サッカーアジアカップで日本が優勝した。
 日本時間1月29日(日)深夜から始まった決勝戦をTV観戦。久々に気分爽快。サッカー監督に駆け寄り抱きついた本田の表情が良かった。みんな幸せね〜としばらく浮かれていた外は吹雪。時々窓の外をうかぐか激しく舞う雪が見える。天気マークは雪が丸か並ぶが新潟市内は積雪20cm(ほど)落ちている。
 県内屈指の豪雪地。魚沼の山奥に位置する入道瀬(いりひらせ)地区は積雪4mに越えた。すさまじい雪の量が。雪崩、雪の重みで家屋の倒壊と警戒は続く。
 宮崎県の霧島連山・新燃岳(しんもくばけ)の噴火は活発化し被害は甚大。
 天災に打撃が大きい。苦しい春を迎えたい。早く来い来い春。
 みんな頑張って。うまい春を迎えたいように。



こころに響く言葉

武智鉄二 (演劇評論家)
 1912年~1988年
 * 数十年前の新潟日報に掲載された随想のタイトルから。

印傳屋を訪ねて



(山梨県甲府市)

鹿革に漆で模様付けした、甲州印傳屋の財布を長く愛用している。
 使い込むほど手に馴染み、壊れかかると直して使ったが、口の部分の漆がはげてきたので買い替えるようにと、市内で物産展がある度出かけたが気に入ったものに出会えない。用事を兼ねて出かけた帰り、まわり道して甲府の本店に寄った。
 古い店内には見事な作品が並び、心弾んだ。二階は印傳博物館になっている。

鹿革に漆で模様付けする技法は江戸時代、上原勇七が創業。当時の上層階級に珍重された。印傳は模様付け後数日間陰干しで乾燥させる。
 気に入ったものが二つあり迷ったが、黒いパールのデザインが素敵でこれに決めた。今では冬木やササキが増し、手にしっくりする。バックの中で、女王のように輝いている。日本の芸術品だ。大切に使うぞ。

夫の財布は、人気商品は、ルミドール(バラの花柄)



歯のよもやま話 第五話

歯に関する言葉二



歯固め 赤ちゃんの口まわりのトレイにグまたはその用具
 歯黒め お歯黒 歯を黒く染めること
 歯ごたえ 食物を噛んだ時の固さ 転じて人の性格もたとえる
 歯触り 食物を噛んだ時の歯の感覚
 歯痒い 思うようにならずいらいらする
 歯止め 物事が勝手に進まないようにする装置
 歯切れ 食物をかみ切る時の感じ 転じて発言の明快さ
 歯向う 歯を剥き出して向かっていく力があある者に反抗して向かっていく
 歯磨き 江戸っ子は房州の砂で磨いた
 歯力 (はりき) 見世物の一つ
 はにかむ 歯をむき出すこと 恥ずかしそうな仕度 歯をむき出した表情は照れ臭そうに笑っているように見える

歯の数は一枚二枚と数えた。
 歯の枕詞は「白玉の」。
 白玉の歯にしみとほる秋の夜の
 酒は静かに飲むべかりけり 若山牧水の様に見えるものも歯といえます。
 下駄の歯、歯車、鋸の歯、櫛の歯等。
 また羊歯(しだ)はその葉の様子が羊の歯のようだとすること、鱒は小さな歯が並んでいることから狭歯(さば)と名付けられたということから狭歯(さば)はすっぱの葉から来た言葉で歯とは関係ありませんでした。

歯に関する成句、ことわざ

奥歯に物のはさまったと思うことを率直に言わないで、どこかにおもしろくない気持ちしがひそんでいるのが感じられる状態

歯ぎしりをするくやしい様子
 ごまめの歯ぎしり力のよばぬ者が憤慨すること
 歯牙春色 ほかからに大笑いすること
 歯牙にもかけない問題にせず無視する
 白い歯を見せる 笑顔を見せ心を許すこと
 切歯扼腕 歯をくいしばってくやしがら
 歯が深く 軽薄な行いを見て不快になる
 歯が立たない 相手が強くて対抗できない
 歯がゆい 思うようにならずもどかしい
 歯切れがいい 人の言葉がてきぱきして明瞭なこと

歯切れが悪いものの方が明瞭でない
 歯を食いしばる 悔しさを一生懸命こらえる
 歯に衣(きぬ) 着せず思ったことをずけずけということ
 歯の抜けたよう 不揃いな様子 何となく物足りない様子
 歯の根も合わない 寒さや恐れのためにふるえおののこと
 歯の根を鳴らす 歯を食いしばって怒る
 明眸皓歯(めいぼうこうし) 瞳が澄んで歯が白いこと 美人の形容 杜甫が楊貴妃を悼んで「哀江頭」で詠んだ
 目には目を、歯には歯を 相手にやられたら、同じように仕返しをすること 古代パピロニアのハンムラビ法典にある言葉。そこまでやれという意味ではなく、その程度でやめなさいということ
 歯亡び舌存す 剛強なものはかえって早く滅び、柔軟なものは後まで生き残ること
 親の脛噛むる子供 歯の白さ親のおかげで生活できる子にかぎって、身なりを小さくいに飾り遊び暮らす例が多い
 春の雪と歯抜の狼はこわくない 春の雪はたいしたことがない
 柿は歯の毒 腹を食べるとそのシブで歯は汚れるが、腹には薬であること
 豆腐で歯を痛める あるはずのこと

子田晃一

